

長谷川等伯展 4月25日(月)～5月8日(日)開催!

お問い合わせは 石川県七尾美術館 ☎53-1500



等伯の郷里 七尾で最初で最後か！ 14日間だけの特別公開！！

国宝「松林図屏風」がやってくる！

今回は、等伯の最高傑作であり、わが国水墨画の最高峰と賞される国宝「松林図屏風」が、石川県七尾美術館で特別公開されることについてお知らせしました。今回は、「松林図屏風」をより深く知っていただくため、「名画ゆえの謎」を紹介します。

謎1 旧所蔵者は誰？

現在は東京国立博物館の所蔵ですが、それ以前は、明治の元勳で古美術のコレクターとしてもよく知られた、福岡孝弟氏の愛蔵品でした。しかし、いつ頃、どういった経緯で福岡氏が所蔵されるに至ったのかは定かではありません。一般的には、京都にあったと見るのが自然ですが、「もしかすると、七尾にあったかも」と想像してみると、さらに色んな事が考えられてわくわくしてきませんか？

謎2 落款は後世に捺された？

両隻に捺された「長谷川」「等伯」の印は、いずれも一般的に等伯基準印と言われている印章とは異なります。また、

紙と印肉との関係をよく見ると、制作当時に捺されたものではなく、いわゆる後世に捺された「後落款」ではないかと考えられるのです。これには、この屏風が制作当時どういった形状であったかというところが、深く関係しています。



謎3 元々は屏風ではなかった？

この謎については、様々な見方がなされています。その原因は、紙継ぎのズレにあります。右隻と左隻を横一列に並べてみると、紙の継ぎ目がズレていることに気がつかれるでしょう。

